

# テクノロジーと学習者

パネルセッションI 2023年8月11日(金)

第1発表 熊野七絵(国際交流基金関西国際センター)

# 日本語教育におけるテクノロジー活用

eラーニングやツールの開発、反転授業やMOOCsの導入  
一部の教師・研究者・機関の取り組み  
学習者向けのもの

日本語教育現場での活用は限定的

コロナ禍の経験

オンライン化（教材・授業・授業外） ニーズの高まり  
学習の「個別化」と「協働」

テクノロジーの有用性と課題を実感

# テクノロジー活用に関する実践や研究

- 1) eラーニングコンテンツやツールによる  
学習機会や利便性の提供、学習の支援 「開発者」視点
- 2) 機関や教師のテクノロジー導入、活用による  
よりよい教育の提供、教師の役割 「教師」視点

當作・李(2019) 藤本(2019) 山田・伊藤(2021)

⇒本発表では、テクノロジー活用について「学習者」視点から考察

# テクノロジーと学習者エンゲージメント

さまざまな娯楽があふれている21世紀の生活における言語教育では、  
「**学習者エンゲージメント**」(認知的・感情的関与といった内的側面と組み合わせさせた行動)が鍵

他教科より言語学習で学習者の積極的関与がはるかに重要なのは  
「第2言語の自動化には、**継続的な練習期間**が必要だから」

学習者に積極的参加と没頭を促す教室指導のあり方を考える際には、学習者を教師の指導の中心に置くのではなく、**学習者自身の学習過程の中心**に置く必要があるとし、さまざまな知見から原則と行動を提案。

Mercer&Dörnyei(2020)

※テクノロジー活用については射程外

# 学習者を取り巻くテクノロジーと言語学習

学習者にとってデジタルメディアの使用は魅力的

「自由時間の言語 Lingua emotiva」>「学校で習う言語 Lingua academica」  
より「本物」らしい 動機づけ減退

# Mercer&Dornyei (2020)

# 日本語学習者とテクノロジー、エンゲージメント

日本語学習の動機・目的

アニメ・マンガなど文化の魅力が大きい

ネット上の趣味の生情報の理解、ファンコミュニティの発信・交流

言語学習に肯定的、学習の成功者、動機づけ、学習方法、真正性

国際交流基金(2023)、熊野(2010)、Williams, K.L.(2006)

⇒ 趣味と教室のギャップはエンゲージメントを阻害/促進?

AI翻訳、AI生成のテクノロジー発展⇒理解・交流に言語の支障なし

マスターするのに相当の時間がかかる日本語学習を継続するには?

隅田(2022)

⇒ 「学習者エンゲージメント」の視点は重要

テクノロジーは学習者エンゲージメントを促進するのか

# テクノロジーによる個別化/最適化

日本語学習コンテンツやツール、LMS

いつでもどこでも、ペース、関心、理解度、達成度に合わせて「学習」  
即時フィードバック、学習のふりかえりや自己統制を可能に

新たなテクノロジー

AI翻訳、レンズ	漢字を含む文書やメニューなどの「理解」の助け
生成AI、AI通訳	作文や会話など「産出」や「やりとり」の助け
ビッグデータ、AI	学習者一人一人への最適化、自動化

⇒ 学習の個別化、最適化は学習者エンゲージメントを促進

# テクノロジーによる協働/交流や発信

テクノロジーによる空間や時間の越境性

ネット上のモノ、ヒト、コト、社会などの多様なつながり

情報収集

Zoom、Google共同編集、LMS掲示版、SNS

協働、交流

SNS、Youtube

発信

久保田(2000)、當作(2013、2019)、岩崎(2014)、村田(2022)

⇒教室外との関わり、ピアとの協働は学習者エンゲージメントを促進



# 「個別化」と「協働」のサイクルと「深い学び」

テクノロジーを活用した反転授業、ブレンディッドラーニング、アクティブラーニング、CSCL

「個別化」⇒「協働・交流」⇒「個別化」のサイクル

⇒深い学び、学習者エンゲージメントを促進

久保田（2000、2013）、芝池・中西（2014、2020）

横溝・山田（2019）、藤本（2019）

# テクノロジー時代の学習者に必要なものとは

「主体的な学びが反転授業の効果を生む」のであり、その逆ではない  
教育効果の3要素: 「**心的態度**」(Mindset)、方法(Method)、時間(Time)

インターネットは思考を「浅く(Shallow)」する  
「**深い学び**」には「**集中した注意力**(focused and sustained attention)」が鍵

教室時間 「**体験値**(rich experience)」を念頭に⇒「復活力(resilience)」

テクノロジーはよくも悪くも「人間性や能力を増幅させる」  
非認知スキル(人格形成)をなすことで活用できる  
Society5.0社会ではAIの「知能」に勝る「**知性**」や「**人間性**」こそが必要  
その変容には「**振り返り/内省**」を培うことが肝要

芝池・中西(2014) 中西(2020)

# 学習者はどのようなテクノロジーを利用しているのか：機関で学ぶ学習者

機関で学ぶ学習者のテクノロジーや学習リソースの利用調査

辞書・翻訳、練習用アプリ、アニメ・マンガ、YouTube、SNSグループ

日本語学習者向けeラーニングコンテンツやツール名は少ない

伊藤ほか(2015)、鈴木ほか(2020)、林ほか(2021)、JASSO(2023)

⇒教室内で教科書等の学習リソースや交流の機会がある

教室外では補完・強化アプリ、学習と切り離れた興味に合うリソース

# 学習者はどのようなテクノロジーを利用しているのか：独学で学ぶ学習者

テクノロジーを利用し独学で学ぶ学習者の存在

メディアやネットの独学を含む学習者は機関調査の5倍にのぼる推定

国際交流基金・電通(2016)

「JFにほんごeラーニング みなと」の学習者は201か国、37万人

ユーザーの学習段階や地域別人数は機関調査とは異なる傾向

中尾・三宅(2022)

⇒独学者は自らテクノロジー・リソースを**選択、活用**し学習機会を創出

独学者がどのようなテクノロジーを利用しているのか**実態は不明**

# 学習者はどのようにテクノロジーを利用しているのか

eラーニングの開発・運用者による「教育・学習デザイン」の検証

UIやUXの検討、改善 自学自習用のコンテンツや機能

課題や成果のピア評価やコミュニティでの交流

学習者の試行、アンケート、修了率、アクセス数やページ遷移の分析

学習行動の記録や学習活動におけるテクノロジー利用の調査、研究

AI翻訳利用録画 自学でのリソース活用録画 作文における機械翻訳利用

⇒ 学習者がテクノロジーをどう使い、それが学習にどう影響するか

具体的な実態解明の必要性

# 目指すべき「学習者」とテクノロジーの活用

Society5.0の時代において目指すべき日本語学習者像とは

自身の学習目的/目標に向かい

適切な態度/人間性で

リソースとしてのテクノロジーを取捨選択し

個別化/最適化をサポートするコンテンツやツールを活用し

注意力/集中力を維持しながら学習し

多様なつながりの中で、協働/交流や発信を通して日本語を使い

振り返り/内省するとともに

自己統制を行いながら、自律的に学習を継続し、深い学びにつなげていく姿

⇒教育外の学習者のテクノロジーを活用した自律的な日本語学習の実態に  
ヒントがあるのではないかな？

# ディスカッションポイント

- ・目指す「日本語学習者像」のためには、テクノロジーを活用しながら、個々の学習者の「学習の自由」や自律性を尊重し、「最適化」を実現するよう「教育」がその形を変えるべきなのか

# 参考文献 (発表内掲出順、太字は予稿集掲載)

- 當作靖彦監修.李在鎬編. 2019.『ICT×日本語教育』, 東京:ひつじ書房.
- 藤本かおる. 2019.『教室へのICT活用入門』, 東京:図書刊行会.
- 山田智久・伊藤秀明編. 2021.『オンライン授業を考える』, 東京:くろしお出版.
- Sarah Mercer, Zoltan Dornyei., 2020. *Engaging Language Learners in Contemporary Classroom*. London: Cambridge University Press.鈴木章能・和田玲(訳) 2022.『外国語学習者エンゲージメント』, 東京:アルク.
- 国際交流基金.2023「[海外日本語教育機関調査\(2021年度\)](#)」
- 熊野七絵. 2010.「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニーズ～」『広島大学留学生センター紀要』第20号, 89-103. 広島:広島大学.
- Williams,K.L. 2006. *The Impact of Popular Culture Fandom on Perceptions of Japanese Language and Culture Learning: The Case of Student Anime Fans.*, Texas: The University of Texas at Austin.
- 隅田英一郎.2022.『AI翻訳革命—あなたの仕事に英語学習はもういらない—』, 東京:朝日新聞出版
- 久保田賢一. 2000.『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』, 大阪:関西大学出版部.
- 當作靖彦.2013.『日本3.0の処方箋』, 東京:講談社.
- 當作靖彦. 2019.「ネットワーク時代の言語教育・言語学習」『ICT×日本語教育-情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』, 東京:ひつじ書房. 2-21



- 岩崎千晶. 2014.『大学生の学びを育む学習環境のデザイン—新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦—』,大阪:関西大学出版部.
- 村田晶子.2022.『オンライン国際交流と協働学習 多文化共生のために』,東京:くろしお出版.
- 久保田賢一.2013.『高等教育におけるつながり・協働する学習環境デザイン:学生の能動的な学びを支援するソーシャルメディアの活用』,大阪:関西大学出版部.
- 横溝信一郎・山田智久.2019『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』東京:くろしお出版.
- 芝池宗克・中西洋介.2014.『反転授業が変える教育の未来—生徒の主体性を引き出す授業への取り組み』,東京:明石書店.
- 中西洋介.2020.『反転授業の実践知—ICT教育を活かす「新しい学び」21の提言』,東京:明石書店.
- 伊藤秀明・石井容子・武田素子・山下悠貴乃.2016.「日本語学習者のネット利用状況と学習サイトへの期待—海外11拠点の調査結果から—」『国際交流基金日本語教育紀要』12, 97-104, 国際交流基金.
- 鈴木智美・清水由貴子・中村彰・渋谷博子.2020.「海外の大学における日本語学習者のツール使用状況の解明—ICT時代における教師の教育設計リテラシーの向上を目指して—」『日本語・日本学研究』10, 23-48, 東京外国語大学国際日本研究センター.
- 林希和子・陳静怡・李雪・義永美央子(2021)「JSL学習者の日本語実践におけるICTツールの使用状況—モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告—」『多文化社会と留学生交流:大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流:大阪大学国際教育交流センター研究論集』25, 75-83, 大阪大学.
- 国際交流基金・電通.2016「[台湾・香港・韓国日本語学習者調査](#)」